

富山高等専門学校

同窓会 会報



National Institute of Technology,
Toyama Alumni Association

Vol.5

2025年3月発行

編集・発行 富山高専同窓会
同窓会HP/nc-toyama-dousoukai.jp



左 火星探査

米国で開催された2024 University Rover Challenge (火星探査のローバー大会) に国際チームの一員として物質工学科3年の小津輝虎君(後列右から2人目)が参加しました。小津君は土壌から微生物などの生命体を見つけ出すために、探査機が採取した土壌や岩石の化学分析を担いました。

右 「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024」

「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024」において、射水キャンパスの出場チーム「プトレマイオス」が東海・北陸地区大会で優勝し、全国大会に進みました。



挨拶 | 定期総会 | 退職教員からのメッセージ
近況報告 | 新理事紹介 | 編集後記

メールアドレスの登録をお願いします
詳しくは同窓会HP「お知らせ」をご参照下さい。

会長挨拶

同窓生の皆様へ

富山高等専門学校同窓会長

I17 稲積 佐門



皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃より富山高等専門学校同窓会の活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。さて、今年も多くの新たな卒業生を迎え同窓会の絆がさらに広がりました。同窓会は、卒業生同士の絆を深め、母校とのつながりを維持する大切な場です。これから、より多くの方々が気軽に参加できるような同窓会活動も進めていきたいと考えております。

また、昨年は「令和6年能登半島地震」が発生し、北陸地方に大きな影響を与えました。被災から1年が経過しましたが、まだまだ復旧復興は道半ばといった状況であり、あらためて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。同窓生の中には、

災害対応や復興支援に携わる方も多くいらっしゃいます。高専で培った技術や知識が、地域社会の支えになることを改めて実感する機会となりました。同窓会としても、今後、復興支援や地域貢献の面でのように関わっていけるのか検討していければと思います。

これからも、同窓生の皆様が交流を深め、互いに刺激を受けあいながら、それぞれの分野で活躍できるよう、同窓会の活動を充実させていきたいと考えていますので是非、同窓会活動へのご参加やご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりますが、同窓生の皆様のご健勝とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

学校長挨拶

富山高専の挑戦

－ AI・データサイエンス・ スタートアップ教育の推進 －

富山高等専門学校校長

國枝 佳明



1. 数理・データサイエンス・AI教育

2025年の新年は穏やかな幕開けとなりました。社会が急速に変化する中、AIは単なるツールではなく、生活や仕事に不可欠な存在へと進化しています。富山高専では、Society 5.0時代を生き抜くため、地域企業と連携し、「数理・データサイエンス・AIの基礎を身につけ、専門分野へ応用できる」人材育成を目指しています。

2020年度には、全学科共通のディプロマポリシーに「AI・データサイエンス」を導入し、対応するカリキュラムを開始しました。また、国立高専の「COMPASS 5.0」拠点校に選定され、2021年度には文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育認定制度」において、リテラシーレベルの認定を全学科で取得。2022年度には、県内で初めて「認定教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に選定され、2023年度には全学科で応用基礎レベルの認定を受けました。

2. スタートアップ教育環境整備事業

政府は2022年を「スタートアップ創出元年」とし、「スタートアップ育成5か年計画」を

策定しました。これに伴い、2022年度の補正予算でスタートアップ教育環境整備事業が措置されました。本事業は、高専生が起業を含め自由な発想で挑戦できる環境を整備し、地域課題の解決や地域活性化にも貢献することを目的としています。

富山高専では、両キャンパスに起業家工房を整備し、起業を目指す学生の支援をしています。また、全学生を対象に、Ti-Team（産学連携授業）、OB/OG・起業家による特別講義、工場見学、課題発見・解決型インターンシップを実施しています。2024年度にはOBによる企業内起業に関する特別講義を行い、学生の意識向上にもつながる成果を上げました。

3. おわりに

変化の激しい社会に適応できる人材の育成に向け、富山高専は柔軟な対応を心掛けています。専門分野を5年間学び、実験・実習を通じて知識と技術を身に付けること、教職員と学生が身近に関わりながら互いに成長する環境は今も変わりません今後とも、同窓会の皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



卒業生へエール！

令和6年9月25日に本校射水キャンパスにて、令和7年3月11日にオーバードホールにて卒業証書・修了証書授与式が挙行されました。

國枝校長より「三方よし」の精神を紹介され、「利他の心」の大切さについて、また来賓の杉野岳技術振興会会長からは、「仕事」に誇りを持ち社会に貢献してもらいたい、とはなむけの言葉が送られました。

稲積同窓会長は9月の卒業式では、進学就職や転職などで困ったときには富山高専同窓会のネットワークを是非活用してほしい、とエールを送りました。3月の卒業式は公務で欠席のため、田嶋理事より以下のメッセージが代読されました。

卒業生の皆様へ

富山高専同窓会長
稲積 佐門

卒業生の皆さん。本日は御卒業、誠におめでとうございます。また、ご家族の皆様には心よりお祝いを申し上げますと共に、國枝校長先生、ならびに諸先生方のご功勞に対し、改めて敬意を表したいと存じます。皆さんは、この富山高専での学びを通じて、専門技術を習得し、仲間とともに切磋琢磨しながら成長されました。その努力が今日という素晴らしい節目につながっていることを大変うれしく思います。

しかしながら、昨年新年早々に発生した「令和6年能登半島地震」により、多くの方が被災され、今もなお厳しい状況が続いております。富山県も深くかわかる地域であり、皆さんの中にも影響を受けた方がいらっしゃるかもしれません。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに1日も早い復興を願っております。

災害は、社会の在り方や技術の重要性を改めて私たちに問いかけます。これから社会に出る皆さんは、技術者として、また地域を支える一員として、知識や経験を活かし、社会に貢献していく機会があるでしょう。富山高専で培った技術力、問題解決力、そして仲間と協力する力は、必ず皆さんの力となります。また、同窓会は卒業後もみなさんのつながりを支え、互いに助け合う場でもあります。震災のような困難な時こそ、同窓生同士の絆が大きな支えになることもあります。是非、卒業後もこのつながりを大切に、母校や仲間との関係を持ち続けてください。

さて、富山高専同窓会は平成21年10月に富山工業高等専門学校と富山商船高等専門学校が統合再編され、6学科校として設置されました。それまで



はそれぞれの学校の同窓会（ほんごう会、北斗会）が同窓会活動を行ってまいりましたが統合後10年を迎えた令和元年10月に統合後の卒業生とほんごう会理事、北斗会理事により設立総会、理事会を開催し、富山高専同窓会を設立しました。これにより、富山高専の在学生および卒業生の同窓会は富山高専同窓会に一本化することとなりました。

同窓会の事業は概ねこれまでのほんごう会および北斗会が行ってきた事業を継承し実施する予定でしたが、新しい同窓会がスタートしたタイミングで、新型コロナウイルスが蔓延したことにより、いまだ思うような活動ができていない状況が続いておりますが、それでも少しずつ同窓会としての活動を進めています。主な事業としては、

・会報の発行です

ほんごう会、北斗会は同窓会員相互の広報活動の一環として毎年会報（冊子）を発行し、同窓会に登録されている会員住所に送っています。富山高専同窓会では冊子体ではなくWebによる会報の発信を行っています。今年の3月末には第5回の会報を発信する予定ですので卒業生の皆さんにも是非ご覧になってください。

・つぎに同窓会名簿管理システムの立ち上げです

同窓会員の名簿については、個人情報保護の観点から冊子での会員名簿の頒布は行っていません。しかし、同窓会は卒業後の会員の消息を把握

し、卒業生相互および同窓会・学校間の連絡が取られるよう、今年度「同窓会名簿管理システム」を導入しました。これはご自身で名簿情報の更新と、名簿情報の内容の公開・非公開の選択、さらに公開する範囲を項目ごとに設定できるシステムで、通年番号とパスワードで管理されています。詳しくは同窓会HPの「富山高専同窓会名簿管理システム」をご参照下さい。

・そして卒業生、在学生への支援です

学校行事への支援のほか、同窓会および本校技術振興会（本校のサポート企業）と連携して、（卒業後・進学後の）就職関係の情報提供、教育講座の開設等を検討しています。

以上の事業はあくまでも最低限取り組む事業であり、富山高専同窓会はまだまだ若い同窓生の会でもありますので、これから若い同窓生らしく、皆様と共に色々な事業を考えて新しい取り組みにチャレンジしていければと考えておりますので卒業生の皆様には、是非ともこれからの同窓会活動に参加、協力



メッセージを代読する田嶋理事

して頂きたいと思います。

最後になりますが、これからそれぞれの道を行っていただくこととなりますが、皆さんが個々の道でご活躍されること、また、一緒にこの富山高専同窓会を盛り上げて頂けることを祈念し私からのお祝いとお願いのメッセージに代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

トピックス

Ⅰ 名簿管理システムについての説明

このたび、富山高専同窓会では、2024年10月より同窓生が自身の情報をオンラインで確認・更新・閲覧できる「名簿管理システム」の運用を開始しました。

各自に割り当てられたIDとパスワードでログインし、情報の更新や他の同窓生の検索・閲覧が可能です。システムは暗号化通信や個別ログインなど、個人情報保護に十分配慮した設計となっています。詳細は富山高専同窓会HP名簿管理システム内の個人情報保護方針・セキュリティポリシーをご参照ください。

本システムは、現在以下の卒業生を対象に導入が進められています：

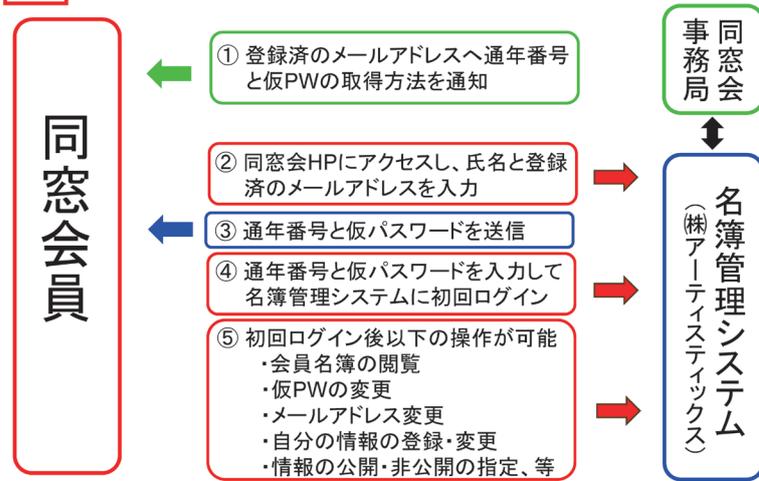
- ・ 2015年3月～2024年3月に射水キャンパスを卒業した会員
- ・ 2022年3月～2024年3月に本郷キャンパスを卒業した会員
- ・ 1950年以降に卒業した北斗会（富山商船同窓会）会員

ログインには、事前に同窓会へのメールアドレス登録が必要です。既に登録済みの方には順次、IDと仮パスワード取得方法をご案内しています。

メールアドレス未登録の方には昨年9月末に郵送にて「同窓会名簿管理システムの紹介と登録のお願い」を送付しています。※案内文の内容は同窓会HPにも掲載しています。案内文を受け取られた方は、富山高専同窓会HPにアクセスし、トップページよりメールアドレスの登録を行ってください。

事務局で本人確認し、システムへの登録が完了しましたら、登録されたメールアドレス宛にログインに必要な「ID（通年番号）」と「仮パスワード」の発行方法を送信します。

A メールアドレス登録済会員が初回ログインするまでの流れ



B メールアドレス未登録の会員

メールアドレス登録手順

同窓会HPのトップページにある「メールアドレスの登録」

からFormsにより、同窓会事務局に

- メールアドレス
- 氏名
- 卒業年
- 卒業学科
- 認証コード (同窓会に登録済の住所に郵送済)

を送信する。

(メールアドレス登録を行い、その後 **A** の手続きを行う)

ログイン方法

メールアドレスに届いたID (通年番号) と仮パスワードを名簿管理システムログインページに入力することで、ログインが可能です。ログイン後は仮パスワードの変更や会員名簿の閲覧、メールアドレス変更、自身の情報の登録・変更、情報の項目ごとに公開・非公開の指定などが行えます。

ログイン後の操作の流れ

- ① ご本人の情報確認・更新
ログイン後に表示される情報は、現在同窓会が保有しているデータです。内容をご確認のうえ、必要に応じて更新・追記をお願いします。
- ② 情報の公開設定
各項目ごとに公開範囲を設定できます (「全体公開」「学年公開」「クラス内公開」「非公開」)。※姓は公開必須となります。
連絡先 (メールアドレス・住所・電話番号等) を非公開に設定しても、システムを経由することで他の会員と連絡を取ることができます。
※同窓会事務局からの連絡が受け取れるように、公開したくない情報は空欄にするのではなく、情報を入力したままで非公開を選択していただくようお願いいたします。
設定方法などの詳細は、名簿管理システム内の「Q&A」ページもご参照ください。
- ③ お問い合わせ
ご意見・ご希望・ご質問などがあれば、同窓会HP内「お問い合わせ」フォームからお気軽にご連絡ください。

同窓会の活動が、より多くの方々のつながりや交流の場となることを願っています。情報の確認・更新へのご協力をよろしくお願いいたします。

令和6年度 富山高等専門学校同窓会

定期総会

日時

令和6年7月25日(木) 19時30分～

● Microsoft Teams によるリモート

令和6年度 富山高等専門学校同窓会定期総会を、令和6年7月25日(木)19時30分からMicrosoft Teams によるリモートで開催しました。

はじめに稲積同窓会長と國枝校長よりご挨拶を頂き、次に佐瀬副校長より母校近況報告についてお話を頂いたあと議事に入りました。予定の審議事項はすべて承認されました。



國枝校長



佐瀬副校長



稲積会長

令和6年度富山高専同窓会定期総会Web会議の様子

次第

1. 開 会
2. 会長挨拶 稲積佐門会長
3. 来賓挨拶 國枝佳明校長
4. 母校近況報告 佐瀬直樹副校長
5. 議 事

審議事項

- (1) 令和5年度事業報告(案)について
- (2) 令和5年度決算報告(案)について
- (3) 令和5年度会計監査報告について
- (4) 役員人事(案)について
- (5) 名簿管理システムについて
- (6) 令和6年度事業計画(案)について
- (7) 令和6年度予算(案)について
- (8) その他

総会資料(抜粋)

○令和5年度 富山高等専門学校同窓会 事業報告

令和5年4月 4日	入学式に出席(稲積会長)
5月9・29日	令和5年度会計監査を実施(河村監査、山崎監査)
6月13日	第1回理事会を開催(Web会議)
7月31日	第1回総会を開催(Web会議)
8月 2日	3同窓会長の校長訪問(稲積会長)
9月27日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式に出席、同窓会への加入説明(稲積会長、水谷理事、金山理事)
11月 2日	富山高等専門学校技術振興会理事会・総会・交流会に出席(稲積会長)
11月 6日	第2回理事会を開催(Web会議)
令和6年3月 7日	新入生入学説明会における同窓会への加入説明 (中島先生、金山理事)
3月12日	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式に出席、同窓会への加入説明 (田嶋理事)
3月31日	同窓会会報をホームページに掲載

○役員人事（役員の改選）

【理事退任】

K金属11 井上 誠
商3 山崎 大夢
国1 磯辺 大地
※ その他の理事は留任

【理事就任】

K 1 中前 薫

○名簿管理システムについて

・名簿管理システムの運用について

名簿管理システムは株式会社アーティスティックスに委託しており、アーティスティックスはセールスフォースの管理システムを使用して運用している。

富山高専同窓会はアーティスティックス社に年額約40万円（税込）をサポート費用として支払い、セールスフォースには年額約28万円をライセンス費用として支払う。

・名簿管理システムの対象者と運用方法

6月末よりテストランが開始され、現在の運用対象は2020年から2024年までの卒業生である。

システムにログインする際には、通年番号と仮パスワードが必要であり、本人確認のためメールアドレスの登録が必須である。

・メールアドレスの登録手順

登録済みの会員には、同窓会事務局から通年番号と仮パスワードの取得方法を通知する。

未登録の会員には、認証コードとメールアドレスの登録手順を郵送し、事務局は承認コードをもとに本人確認を行った上でセールスフォースに登録する。

・名簿の管理権限と活用方法

富山高専同窓会は全卒業生の管理権限を持ち、ほんごう会は本郷キャンパスの卒業生、北斗会は射水キャンパスの卒業生の名簿管理権限を持つ。

会員は名簿の閲覧や自身の情報の公開・非公開の設定が可能である。

○令和6年度 富山高等専門学校同窓会 事業計画

令和6年4月4日	入学式への出席（稲積会長）
5月13日・22日	令和5年度会計監査を実施（河村監査、山崎監査）
5月22日	3同窓会長と富山高等専門学校校長との面談
6月18日	第1回理事会を開催（Web会議）
6月28日	名簿管理システムテストラン開始
7月25日	第1回総会を開催（Web会議）
9月25日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明（稲積会長）
11月	富山高等専門学校技術振興会理事会・総会への出席（稲積会長）
令和7年3月	新入生入学説明会における同窓会への加入説明
3月	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会の説明（稲積同窓会長）
3月下旬	同窓会会報を発行

令和7年度 定期総会 審議事項(予定)

令和6年度 富山高等専門学校同窓会 事業報告(案)

令和6年4月 4日	入学式に出席(稲積会長)
5月13日・22日	令和5年度会計監査を実施(河村監査、山崎監査)
5月22日	3同窓会長と富山高等専門学校校長との面談(稲積会長)
6月18日	第1回理事会を開催(Web会議)
6月28日	名簿管理システムテストラン開始
7月25日	第1回総会を開催(Web会議)
9月25日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明(稲積会長、水谷理事、金山理事)
10月 1日	名簿管理システム導入開始
10月31日	富山高等専門学校技術振興会理事会・総会・交流会への出席(稲積会長)
令和7年3月 6日	新入生入学説明会における同窓会への加入説明(中島先生、布目先生)
3月11日	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会の説明(田嶋理事)
3月31日	同窓会会報を発行(ホームページに掲載)

令和7年度 富山高等専門学校同窓会 事業計画(案)

令和7年4月	入学式に出席
4月	令和5年度会計監査を実施
5月	3同窓会長と富山高等専門学校校長との面談(稲積会長)
開催日未定	第1回理事会を開催(Web会議)
開催日未定	第1回総会を開催(Web会議)
9月	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式に出席、同窓会への加入説明
11月	富山高等専門学校技術振興会理事会・総会に出席
令和8年3月	新入生入学説明会における同窓会の説明
3月	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式に出席、同窓会の説明
3月下旬	同窓会会報をホームページに掲載

母校近況



令和6年度
射水キャンパス学生会長
電子情報工学科 3年
木下 京汰朗

今年度の学生会は、多くのことに「挑戦」をした1年となりました。今年は、コロナ禍後、制限がない中で開催する初めての北斗祭となり、無事に開催できたことを嬉しく思います。また、学生会の広報活動をより積極的に行うため、新たに広報委員会を設立しました。学生への情報共有がスムーズになり、より多くの人に学生会の活動を知ってもらうことができました。1年間、イベントの企画・運営や学内環境の向上に取り組み、より充実した学生生活を目指して活動することができました。これらの取り組みを通じて、多くの学生が楽しみ、関心を持って参加できる場を提供できたことを大変嬉しく思います。



北斗祭

5月23日、24日の2日間にわたり北斗祭を開催しました。テーマとした「PROTEEN」には、型にはまらず新しいことにどんどん挑戦し、学生一人一人が主役となれる北斗祭を通じて個性豊かで多様な富山高専らしさを伝えたいという意味が込められています。今年から実施した新たな取り組みを紹介します。今年の北斗祭では、特設ホームページを開設し、模擬店情報や企画内容をわかりやすく発信しました。結果として、関連ページの合計PV（ページビュー）は50,000PVを達成し、多くの方々に閲覧していただきました。来場者や学生からも「見やすい」「情報が整理されていて助かる」などの声をいただき、事前の情報収集がスムーズに行えたとの評価を受けました。これにより、校内外の方々に向けた情報発信の強化を実現し、北斗祭の魅力をより多くの人に届けることができました。加えて、例年屋外で行われていたメインステージを屋内に設置することで、天候に左右されず、より快適な環境でステージイベントを楽しめるようにしました。さらに、本格的な照明設備と音響機材を導入し、より迫力のあるステージ演出を実現しました。

カッターレース大会

今年のカッターレース大会は、予定日・予備日ともに天候に恵まれず、残念ながらカッターを漕ぐことはできませんでした。しかし、大会と同時進行で企画していた校内イベントは予定通り実施することができました。今回の校内企画は、すべて新しく考案した内容であり、学生会メンバーを中心に企画・運営を行いました。天候の影響で本来のレースは実施できなかったものの、参加した学生たちがイベントを楽しんでいる姿を見ることができ、開催した意義を強く感じました。また、同時進行でかき氷販売も実施し、多くの学生に利用していただきました。



母校近況

令和6年度
本郷キャンパス学生会会長
機械システム工学科
沓名 紗矢



今年度の学生会活動は、「学生に寄り添う親しみやすい学生会」を目標に掲げ、活動を通じて楽しそうな声が聞こえてくるような環境づくりに努めました。

新たな取り組みとして補助役員制度を導入しました。これにより、これまで学生会の局員のみ

での行っていた活動の一部を、学生会局員以外のクラス役員を補助役員として招集することで、分担できるようになりました。局員の負担軽減だけでなく、学生会という組織の内輪感を和らげる効果もあったと感じています。

また、今年度からは軽音楽部の部内演奏会が校内演奏会となり、部員以外の学生も楽しむことができるようになりました。これは、志峰祭が開催されない年でも成果発表ができる場が欲しいと、部員が中心となり12月に実現したものです。今後もこのような学生が活躍できる場が広がることを期待しています。

今年度の学生会活動は、新たな制度の導入や行事の工夫を通じて、当初の目標の実現に向けて大きく前進したと感じています。一方で、学生会役員数が例年に比べ少ないという課題もありました。そのため、より多くの学生が学生会活動へ興味をもち、学生会役員となるように、声掛けを強化し、1,2年生の学生へ勧誘活動などを行いました。やってみたいと声をかけてくれる下級生も増え、来年度はさらに良い学生会活動が行えるのではないかと期待しています。

来年度も多くの「楽しい！」の音が響く学生会活動になることを願っています。



イチョウ並木

球技大会

年に二回開催される校内球技大会では、昨年度同様に「SPORTSDAY」というWebアプリを活用しました。このアプリは、試合や審判の時間や場所をスマホ一台で可視化することができるもので、集計作業の効率化や大会運営の円滑化に大きく貢献しています。今年度はアプリの認知度が格段に上がり、アプリ利用者も増え、射水キャンパスの方でもアプリ利用が開始しました。



球技大会

さらに、春季球技大会では借り人競争、秋季球技大会ではさらにレベルアップした借り人競争を含む障害物競走を行いました。クラス代表がランダムに引いたお題にあった人を連れてくる借り人競争は、学年学科問わず多くの人と交流する機会となりました。



球技大会 借り物競争

わが師の恩

機械システム工学科 佐瀬 直樹



僕が富山高専で過ごした25年、教育、研究、学校運営のいずれにおいても、本当に楽しく充実した日々を過ごすことができました。富山高専の先生方、事務職員、技術職員そして学生らに恵まれ、助けていただいたおかげです。深く感謝申し上げます。

我々専門学科の教員のほとんどは、教員免許を持っているわけでもなく、教育学を学んだこともないまま、高専の教員となり、学生の教育・指導に携わってきました。教育・学生指導を行うにあたり、頼れるのは自分がこれまで受けてきた教育と経験だけでした。小学校、中学校、高校の先生、そして大学で研究指導を受けた教授、これまで教えを受けてきた先生方の顔を思い浮かべてやってきました。尊敬していた先生、厳しかった先生、いまいち気の合わなかった先生、多大な迷惑をかけた先生など、また先生方に褒められたこと、叱られたこと、励まされたこと、そしてその時々言葉が思い出されました。それらの一つ一つが自分の人生にどれだけ大きな影響を与えてきたかを考えると、僕がこれまで富山高専の学生に対して発してきた言葉が、それぞれの学生にどう伝わっているかが気がかりになります。ありがたいことに、僕は本当に素晴らしい先生方に巡り合ってきました。僕が先生方から受けた恩に報いるために

それなりにがんばってきました。僕が受けてきた以上の教育や助言ができたかどうかはわかりませんが、卒業生の社会での活躍を見て胸をなでおろしております。

僕が先生方からいただいた言葉のうち印象に残っているものを一つを紹介します。小学校6年生の卒業式の前日に担任の先生がクラス全員にノートを出させ、今からいう言葉を書き留めるよう言いました。その言葉は、「その仕事は俺の仕事だ。」でした。他人が嫌がる仕事を率先してやれ、困っている人がいたら躊躇することなく助ける、というものでした。その時は特に心を打たれることもなく終わりました。しかし何故かこの言葉がその後の人生でことあるごとに思い出されました。もちろん目の前の仕事をすべて率先してやってきたわけではまったくありませんが、この言葉が引き金となり、いくつかの仕事を引き受けてきました。その結果、自分が鍛えられ、新たな出会い、新たな仲間ができたことがしばしばありました。今振り返れば、僕の人生はこの言葉に背中を押されてきたように思います。これを読まれた皆さんの心にぜひ書き留めておいてもらえればと思います。「その仕事は俺の仕事だ。」と。

経験学習

国際ビジネス学科 長谷川 博



高専教員として27年（26年9ヵ月）奉職させていただきました。平成8年に新設された富山商船高専国際流通学科の1期生が3年生の時の教員公募からご縁をいただきましたので、同窓会の皆さまとは平成10年以降どこかで関わらせていただいたかかもしれません。

あーそういえば、と思い出していただけたら幸いです。

校務は、通算で長い順に担任15年（うち卒業年次5回）、学科長7年、志願者対策室長2年、教務主事補2年、寮務主事補1年。学科長の時に統合（高度化再編）と専攻科の設置がありました。学科の進路指導は5年の担任の時以外でも公務員志望向けの指導を在職期間に亘って担当しました。科目担当は、本科で会計関連科目、マーケティング関連科目、専攻科で産業特論など。

部活顧問は現在まで継続しているものを挙げると、吹奏楽部、フリースタイルダンス部、日本舞踊同好会、アントレプレナー研究同好会です。吹奏楽部は、自身が中学、高校、大学、一般と経験してきたこともあってクラブ昇格にも関わり、フリースタイルダンス部は同好会創設とクラブ昇格、日舞とアントレは同好会創設に携わりました。高専の特徴に実践的な学びが挙げられます。高専生は同年代の1%という希少な存在ですので、例えば進学校の普通高校に進んだ場合と比べて、経験できることが格段に違うということが高専生の大きなメリットだと思っています。課外活動の機会もその一つです。部活動を通して、社会に出る前に社会活動の一端を（良い面も悪い面も理不尽なことも）経験できるのは貴重なことです。

ビジネスで役立つ能力を修得するという観点から経験学習が重視されます。担当した講義科目でも実際の企業のケーススタディを採り入れました。振り返ると、講義でも、就職や編入学の進路指導

でも、当初から自信を持って指導に臨めたわけではなく、自身の指導経験の蓄積が経験知の積み重ねとなっていて、それに必要なのは想像力だったと思います。つまり相手の立場（試験官、採用担当者など）を想定し、彼らが何を求めるのか、どう考えるのかを想像することによって見えてくることも多いということです。ビジネスで言えば、顧客や市場のニーズを想像し、自らが提供するプロダクトを構築する。自分自身が経験学習を実践してきたのだと思います。

人間の悩みの大半は人間関係と言われます。よく「みんながそう言っている」などという言い方を聞くことがありますが、自分を取り巻く周囲の人たちも属性が自分と似ていることが多いので「みんな同じように感じている、考えている」と思いがちです。自分はこう思っているから相手もそう感じるに違いない、というのは想像力の欠如に過ぎません。相手に対する想像力の欠如が、相手に対する不満となり、関係がこじれることにつながります。

高専生は幅広く経験できる希少な存在と述べましたが、一方で少数派であるがゆえに自分の周りも少数派であることが多く、「自分の周りは皆そうだ」という感覚が狭い世界でのものに過ぎないということがあり、普遍性が求められる課題に向き合う時に、世の中の多数派の感覚を見落としがちになります。そういうことを自覚できるのも経験の積み重ねがあってこそです。

同窓会の皆さまは、社会のあらゆる場面でご活躍されていることと思います。組織の内外を問わず取り巻く状況が目まぐるしく変化している現代、多くの情報を取捨選択し判断を下す必要があります。このような過酷な環境を生き抜くには、高専時代を含む経験学習こそが大きな土台になるのだと思います。

21年間ありがとうございました

物質化学工学科 津森 展子



私は2004年に富山高専に赴任しました。そのときは教育経験もなく、化学の知識といっても断片的なものしかなかったので、とても不安でした。人前でしゃべるのが超苦手だったこともあり、当時は不安しかありませんでした。何の自信もなかった私は、学生からの質問にもしどろもどろで、何か言われることにおびえていました。「小動物みたい」と学生に言われるほどおどおどしていたのです。それでも2年目から担任を持つようになって、徐々に学生との付き合い方や授業の進め方にも慣れて、いろいろなことにも挑戦するようになりました。最初に担任した電気工学科では、特活の時間に燃料電池と可動器を製作させました。そして、それを持って第21回石川地区中学高校生徒化学発表会にも参加しました。また科研費が当たったのを機に、物質工学科から卒研究生を迎えることにもなりました。中国の有機化学研究所から先生を招へいして、一緒に実験をしたのもこのころでした。授業では学生に対する化学実験の新しい取り組み方法についても試行錯誤し、いくつかは論文にして紹介しました。2009年から受け持った機械工学科の学生はとても元気がよかったので、特活はほぼソフトボールをしていました。合宿研修で私は“妖精”の役を仰せつかり、キャンプファイアーを囲む舞台上で一生懸命役目を果たしました。そのころ射水キャンパスとの統合で立ち上がった、女性活躍のためのプロジェクトにも参加して、サテライトオフィスがあった宇奈月に度々行きました。プロジェクトの打ち上げを宇奈月温泉で盛大にしようとして楽しみにしていた日に、東日本大震災が起きました。予約をキャンセルすることもできず、気もそぞろに一同集まりましたが、みなテレビに見入り言葉を失っていました。寝ているときもたびたび鳴る警報で、とてもまったり楽しめる状況ではあ

りませんでした。2013年には物質化学工学科となった1, 2年生のクラス担任をしました。半分以上が女子のクラスだったので、これまで女子が1名しかいないクラスを持っていた私は、最初ちょっと戸惑いました。ほぼ今まで通りのクラス運営ができましたが、恋愛関係のトラブルが何度か起こりました。2016年に独身に戻ったと同時に物質化学工学科へ移動になりました。4, 5年の担任になりたかったのですが、なかなか機会が得られず、3年の担任や1年の副担任、学科長の仕事を経てようやく2021年に4年の担任になりました。しかし、コロナがまだ収まっていなかったため、県外工場見学へはついに行けませんでした。2023年の3月の卒業式で、5年生の名前を読み上げたときには、少しウルっとして言葉が詰まりそうになったのを覚えています。最後に担任した3年生は、志峰祭でサンダーラボという化学実験教室を開いたり、高校生模擬裁判選手権に女子学生3人が出場し優勝したり、火星探査車のコンテストUniversity Rover Challengeに日本で初めて選ばれアメリカの大会に参加したり、と非常にアクティブなクラスでした。サポートする私もワクワクするようなことが何度もありました。21年間顧問をした卓球部でも、高専大会などでいろいろなところへ引率に行きました。インターハイにも一度引率したことがあります。そのときの最終日にホテルの予約が取れなかったため同じ青森市内の酸ヶ湯温泉に泊まりました。今でもテレビで大雪のときに“酸ヶ湯で〇〇cm”とアナウンスされると思い出します。

このように今思い返すと、学生とのいろいろな交流が思い出されます。卒業してからも交流のある学生が何人もいて、時折訪ねてきてくれます。つまり、私の高専生活はとても充実していたということです。皆さま21年間ありがとうございました。

回顧一滴 — 感謝を込めて

一般教養科 青山 晶子

平成3年、富山工業高専初の女性教員として採用されました。女子学生も少なく、女性教員がゼロという高専も珍しくない時代でした。

33年もの間、優秀な学生たちと勉強することができ、本当に幸せでした。ご支援下さった皆様に心より感謝申し上げます。

思い出は尽きませんが、一部を紹介して、ご支援に感謝したいと思います。

Team 富山高専

赴任翌年の1992年、故寺田達郎先生率いるTeam富山高専は、第1回のグランドソーラーカー・チャレンジin能登とSolar Car Race Suzuka'92に参戦しました。マシン名はTerrari (テラーリ)。寺田先生が誘って下さり、チームに参加することになりました。



Terrariを囲んで (千里浜ドライブウェイ)

教員、技術職員、学生から編成されたチームは、全員による話合いの後は、学生が製作し、教職員は支援に徹するというスタイル。全員がものづくりを楽しみながら、環境庁長官賞受賞という成果も収めるというハイパフォーマー集団でした。高専を理解するための貴重な機会であり、高専における英語教育を考える際の原点になりました。

「わかたけ」と「たけのこ」

2013年に学生主事を拝命し、統合後の一期生たちが学生会役員になりました。学生会報を発行することになり、初代広報局長が「たけのこ」と命名。学生会誌「わかたけ」は「しなやかな逞しさ」の象徴ですが、「たけのこ」には強い成長の勢いが感じられます。月刊紙と号外の発行は大変でしたが、皆で作業を楽しみました。

広報局長を始め執行部にも女子学生が増え、キャンパスの雰囲気にも変化がありました。本郷キャンパスで初の女性学生会長が誕生したのは令和6年度のことです。



学生会報「たけのこ」のヘッダー

高専ロボコン2016

学生主事の任期最後の年、メカテック部の「プロジェクトA (ラムダ)」が、東海北陸地区大会で優勝し、全国大会に出場しました。準々決勝で惜敗はしましたが、ライブストリーミングで大人気を博しました。

ロボコンでは、多くのご支援を頂きました。指導教員や技術職員はもちろん、いつも施錠時刻ギリギリまで待って下さった警備員さん、全国大会のノウハウを教えて下さった石川高専と岐阜高専の先生方、後援会や同窓会、そして部活動OBの皆様、本当にありがとうございました。



全国大会出場記念シール



と実も可憐ですが、よく見ると、紅葉のころにはすでに立派な花芽を持っているのです。春の準備を万端整えてから厳しい冬を迎えるという「準備の良い」木です。横を通るたびに「見習わなくては」と思いつつも一度もできませんでした。

ほかに、躑躅、山茶花、紫陽花、ユリの木などがあり、ちょっとした植物園です。今度ゆっくりスケッチしたいと思っています。

剣道部の顧問

2004年、女子硬式テニス部から剣道部の顧問になりました。

招聘コーチの伊勢博行先生のご指導により、2009年には工業高専として20数年ぶりに北陸地区大会で優勝。以来、2012年から2016年の5連覇に続き2018年にも優勝しています。

私の仕事は、「独特の」匂いのする剣道場へ行って稽古を見ることと、監督として代表者会議に出席し、学生が決めたオーダーを提出することです。伊勢先生と部員のおかげで、全国大会には、男女、団体・個人で10回も連れて行ってもらいました。中でも、2013年の女子団体3位入賞と2018年の木倉健成君の優勝は忘れることができません。他校からも祝福され、Teamを超えFamilyになったような気がしました。

富山高専のますますのご発展を祈りつつ、ペンを置きます。



ハナミズキ

本郷キャンパスと言えば若竹ですが、花水木もあるのをご存じでしょうか。白い花も赤い紅葉

同窓会事務局へメールアドレスの登録をお願いします！

富山高専同窓会事務局から会員の皆様への情報の提供や案内の連絡等は、基本的に郵送等ではなく、E-mailにより行っています。また、本同窓会の名簿管理システムにログインに必要なパスワードの発行に係る本人確認等も、E-mailにより行っています。

会員の皆様には、同窓会事務局にご自身のメールアドレスの登録をお願いします。

富山高専同窓会HP
TOP画面

会員の皆様へ

メールアドレスの登録
をお願いします。

富山高専同窓会では、メールアドレスを登録していただいた会員に対し、今後開催される総会や会報等の情報をご案内します。

ぜひともメールアドレスを登録していただき、同窓会活動へのご協力をお願いします。

また、登録済みのメールアドレスを変更する場合も、再度登録願います。

登録はこちら

退任のご挨拶

商船学科 松村 茂実



海運不況下の1983年に本校を卒業、船会社を退職する2019年までの36年間で海上勤務をはじめ、陸上勤務では5つの業種を経験してきました。船舶の運航のほか、安全運航を支える船舶管理などを通して、船の建造、売船と船舶のライフサイクルに一貫してかかわってこれたこと、また6

つ目の業種となった本校での7年間では、海事クラスターで活躍する人材の育成にも、微力ながらお手伝いさせて頂いたことは、とても幸せな社会人キャリアを送ることができたと思っております。本校のご関係の皆様には大変お世話になりました。お礼申し上げます。

会員各自で

登録情報の更新 (追加・削除・修正)

をお願いします!

項目ごとに公開範囲や
非公開の設定ができます

名簿管理システムにログイン後は仮パスワードの変更や会員名簿の閲覧、メールアドレス変更、自身の情報の登録・変更、情報の項目ごとに公開・非公開の指定などが行えます。

富山高等専門学校同窓会名簿管理システム

登録内容 一覧 クラス理事 役員 [ログアウト](#)

登録内容

通年番号: 2100E00901
※通年番号とは、「卒業年+これまでの名簿コード」を指します。

*氏名	姓 <input type="text"/> 名 <input type="text"/>	全体公開 <input type="checkbox"/>
ふりがな	<input type="text"/>	※姓は常に全体へ公開されます
旧姓	<input type="text"/>	
*メールアドレス	<input type="text"/>	非公開 <input type="checkbox"/>
*現住所	郵便番号 <input type="text"/> - <input type="text"/> 富山県 <input type="text"/> 市区郡 <input type="text"/>	クラス公開 <input type="checkbox"/>
*電話番号1	<input type="text"/>	学年公開 <input type="checkbox"/>
電話番号2	<input type="text"/>	クラス公開 <input type="checkbox"/>
勤務先	<input type="text"/>	全体公開 <input type="checkbox"/>
勤務先TEL	<input type="text"/>	全体公開 <input type="checkbox"/>
勤務先住所	郵便番号 <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> 市区郡 <input type="text"/>	クラス公開 <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 陸上(本部) <input type="checkbox"/> 陸上(制水) <input type="checkbox"/> バレーボール(本部) <input type="checkbox"/> バレーボール(制水) <input type="checkbox"/> バスケットボール(本部) <input type="checkbox"/> バスケットボール(制水) <input type="checkbox"/> 硬式テニス(本部) <input type="checkbox"/> 硬式テニス(制水)		

近況報告

卒業学科の「略称」と「期」については同窓会HPを参照ください。

機9 牧 駿希



普段の検修作業

同窓会の皆様、初めまして。機械システム工学科2022年度卒の牧駿希と申します。

私は、本科卒業後、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）に就職させていただきました。現在、私は当社の車両・機械系統に所属しており在来線(気動車)のメンテナンスを担っている名古屋車両区で業務に従事しております。名古屋車両区は、所属車両数と車種が非常に多い職場で、かつディーゼルエンジンによって駆動させる気動車をメンテナンスする職場であるため電車よりも車両の故障が多く非常に大変な職場です。しかし、その分学ぶことも多くやりがい

感じながら業務を遂行することができています。

入社当初は、右も左もわからず車両知識はもちろん社会人としての人間性が形成されていませんでした。しかし、入社後2ヶ月間の新入社員研修を通してJR東海社員としてのあるべき姿やお客様の安全を守り抜くプロフェッショナルとなるための基礎知識を学ぶことで社会人としての土台を固めることができました。現場に配属されてからも、一人前の作業者になるために努力を重ねました。その中で、私が最も大切であると感じたことは、「コミュニケーション能力」です。日々学ぶ新たなことに対して、疑問に思ったことや理解できなかったことを先輩に聞き自身の成長に繋げることで一人前になるためのステップをスムーズに上がることができました。また、鉄道のメンテナンス業務はチームで協力することが多いため先輩や同期、後輩社員とのコミュニケーションを多く取り、親交を深め、助け合うことで業務を円滑に遂行できることを学びました。この先の自身のキャリアにおいても、人との関わりを大切にしていける前向きな性格を活かして取り組んでいきたいと考えています。



区内競技会の様子



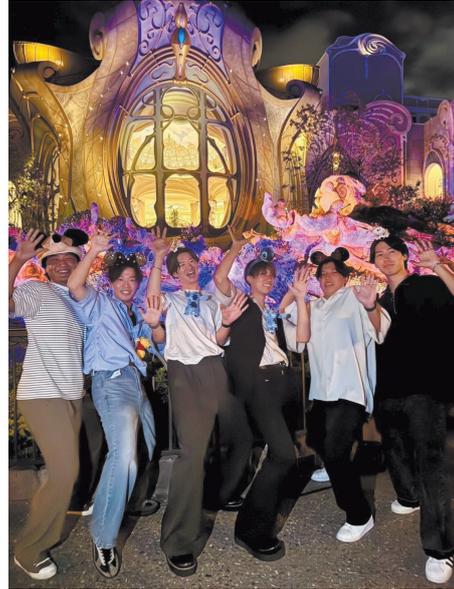
若手勉強会の様子

現在は入社後2年が経過し、車両に対する知識・技術が少しずつ向上し、職場内で任せられる役割も大きくなってきました。後輩社員も入社し、指導する立場にも回る中、先日後輩社員に対して車両知識・技術向上を目的とした若手勉強会を開催しました。後輩に必要な教育を同期と相談し勉強会の計画から開催、開催後

のフォローまでを行いました。自分自身を含め、入社からの歴が浅い社員は車両故障発生時にどのような手順で故障箇所、不具合箇所を調査し特定するのかといったフローの理解が不十分であると考えました。そこで、車両の回路の教育や実際に現車に不具合仮設を施し実際に調査を後輩に行ってもらう中で教育を行いました。この勉強会を行ったことで、後輩社員の知識・技術向上に加えて自分自身が教育側に回ることで、新たに学ぶことが多く、成長する良い機会となりました。

また、現在は今後導入予定の次世代車両の検査方法の計画にも携わらせていただいています。新たに学ぶことが多く、勉強の毎日ですが学生時代野球部で培ってきた努力を重ねられる力を存分に発揮し、安全を守り続ける社員となれるようひたむきに取り組んでいきます。

最後に、卒業後も学生時代の友人とは写真のように良好な関係を築かせていただいています。高専時代の友人は一生の仲間だと思っています。この先も人との繋がりを大切に、毎日を明るく楽しく前向きに生きていきます。



学生時代の友人とディズニーシー

商10 尾崎 海碧

富山高等専門学校を2024年9月に卒業いたしました、尾崎海碧です。卒業してから約半年が経とうとしていますが、まだまだ学生気分は抜けません。

私は生まれも育ちも富山県です。カッコいい船とかわいい制服に憧れるというごく単純な理由で商船学科に入学しました。

入学してすぐは、寮生でした。しかし、ホームシックにより半年で退寮してしまい、退寮後は片道2時間以上かけて通学をしていました。野球部のマネージャーもしていたため、夏の大会前は始発に乗り、電車の中でひたすら千羽鶴の鶴を折っていた記憶があります。野球に船に、全てがキラキラしていた高専での5年半の青春は、素敵な宝物です。



私は現在、大阪府の梅田ある内航タンカー会社の陸上社員として勤務しております。

陸上社員は20人弱で、自社管理船舶は約30隻の会社です。来年度、さらに船が増える予定です。

これまでの実習船とは違い、タンカー船なのでわからないことだらけで勉強の日々が続いています。社内では、配管図や積荷に関する書類とにらめっこ、近くに船が来たときは、船に

行って荷役を見学し、船員さんに実際に教えてもらっています。だんだん船員さんとも仲良くなってきました。先日は、海技大学校のタンカー研修に参加し、改めて基本の航法や法律、AEDによる人命救助や油、タンカー船のことについて学びました。また私は、船の安全に関する担当の為、検船の立ち合いや、船員さんに対しての安全に関する研修も行っています。先日、ドックに入っている船で初の安全研修デビューをしました。今は、すべてにおいて独り立ちすることが目標で、たくさん学んで必死に先輩たちについていこうと頑張っています。

ご縁があり、求人票も来ていなかったこの会



社の船の船長にお誘いしていただき就職したのですが、私は会社初の新卒社員で同期もおらず、年の近い上司もいません。親元を離れ、初めての都会に初めての就職で不安いっぱいでしたが、月1回女子会が開催されたり、上司には元吉本興業の人が2人いるという大阪らしすぎる一面があるなど、大阪の人の暖かさや優しさのおかげで笑いの絶えない毎日を過ごせています。

まだまだ社会人には慣れませんが、仕事もプライベートもどちらも充実させ、楽しい毎日にしていきたいです。半年経って、友達も恋しくなってきました。時には友達に会って、久しぶりに学生時代の頃のようにみんなで笑い合いたいです。



制1 福澤 亮太

2015年に電気制御システム工学科を卒業いたしました福澤亮太です。私は本科を卒業後、名古屋工業大学（名工大）へと編入学いたしま

した。その後、東京大学大学院へと進学し、博士課程を修了したのち、企業経験や東京大学の助教経験を経て、現在は奈良先端大の助教と

して研究・教育活動に励んでいます。

名工大では、電気電子工学科の中の材料・デバイス系のプログラムに属していました。ここでは、電子物性や電子・光デバイスに関する講義を中心とし、信号処理や通信工学といった講義も展開されていました。私は、高専で藤崎明広先生の「応用物理」の講義を受けてから、物理学を面白いと思うようになりましたが、編入学後に電子物性や量子力学などの講義を受けて、ますます魅了されていきました。反面、信号処理や回路、制御といった工学系の科目にはあまり興味を見出せず、電気電子系の学科に来てよかったのか悩むこともありました。そのこともあり、大学院に入ると、物理学専攻や物理工学専攻などで開講されている講義も積極的に受講するようになりました。

研究面では、材料や電子デバイスの特性を数ナノメートルといったミクロな領域で計測するという研究をしており、非常に熱中しました。特に、オリジナルの測定・解析法を開発して、新たな測定を実現することを研究していましたが、国内外の学会発表で、いろんな方に興味を持ってもらえるのが非常に嬉しかったです。また、実験系の研究を通して、これまで興味を持てなかった工学系の科目も段々と面白さを感じるようになってきました。M2, D1と順調に研究が進んでいき、これからどんどん海外の学会で発表して行こうと意識が高まっていた矢先に、コロナ禍へと突入していきました。努力の末、何とか投稿し採択していただいたカナダでの国際会議もオンラインでの開催となりました。その後、国内の学会を含め全てがオンライン開催へと移行しました。研究活動において、学会におけるフリーディスカッションは非常に重要で、深い議論を行えることはもちろん、お互いが励まし合うことでモチベーションの向上にも繋がっています。それが無くなってしまったため、コロナ禍で過ごした博士課程のうち2年間は非常に辛かったことを覚えています。現在は、かつての日常が取り戻され、国際会議や

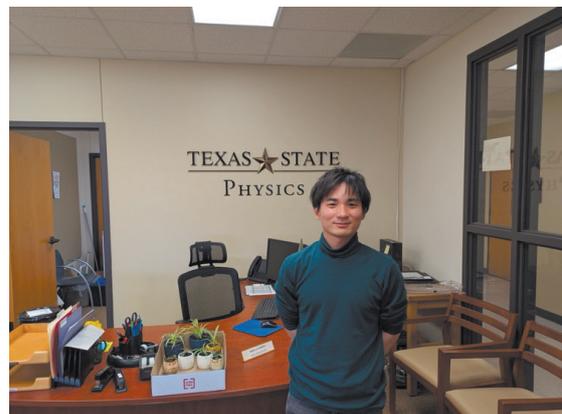
国内学会もオンサイトで開催されるようになり、非常に充実した研究生活を送れています。

さて、高専での当時のカリキュラムを思い出すと、電気工学、機械工学をメインとした複合的な学科でありましたが、これは私には非常に良かったと思っています。研究現場では、回路や制御、信号処理といった電気工学はもちろん、機械的振動や梁のたわみ現象など、機械工学の知識を使う場面が数多くあり、高専で基礎科目を幅広く学べたことに感謝しています。

現在の私の立場は、任期がついたポジションのため非常に大変ではありますが、研究を楽しみながら良い仕事をし、後進の育成にも力を入れて取り組んでいきたいと思っています。



応用物理学会 論文奨励賞授賞式にて大会長の本木先生と



テキサス州立大学物理学科にてセミナーを行った際の様子

理事就任のご挨拶

富山高専同窓会会員の皆様、はじめまして。

国際流通学科1期卒の中前 薫と申します。

この度、ご縁がありこちらの理事に就任いたしました。

私は、国際ビジネス学科の前身である国際流通学科の1期生として入学しました。当時の国際流通学科では4代目練習船 若潮丸1泊2日の乗船実習が行われていました。寮生、通生が1泊ながらも寝食を共にしたのは、とても良い思い出となっています。この若潮丸は、私が入学する頃から現在も商船学科の学生の実習に活躍しています。

昨年1月の能登半島地震の際には、学生・教職員が支援物資を積み込み、被災地へ届けたというニュースは、卒業生としても感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

そして先日、新練習船の建造および来年4月からの活用が発表されました。4代目若潮丸の貢献に感謝するとともに、5代目若潮丸の活躍を願っています。

私は現在、北斗会（旧富山商船同窓会）事務局員として同窓会の業務を行っています。

ここでは現在進めている「富山高専同窓会 名簿管理システム」の運営にも携わっています。会員の皆様には同期会並びに職場の先輩等、高専同窓会・北斗会を問わず会話のきっかけの1つとしていただき、システムへの登録をお願いします。

そしてこのシステムを通して同窓会活動がより活発に行われることを願います。

今後も両会を通して、会員の皆様、在学生の皆様のお力になれたらと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

編集後記

コロナ禍もようやく終息し、日常は落ち着いてきたようです。本同窓会設立直後は、同窓会総会、理事会は本校で会員が一堂に会して対面で行われましたが、コロナウイルスの感染が懸念されるようになった頃より、いち早くリモートで開催されるようになりました。もともと本校は再編統合されてから、両キャンパス間で日常的にリモート会議を行う素地があったので、同窓会においても極めてスムーズに移行できたように思います。やがて感染が拡大するにつれ、リモート授業も本校が全国の高専に先駆けて行われ、その後は学会等でもリモートでの参加が主流を占めるようになりました。そして今日においても、広く浸透した会議の形式はもとに戻る気配はないように思います。皮肉にもリモート会議が急速に普及したのは、コロナ禍が残した爪痕かもしれません。

さて、同窓会の目的の一つに「会員相互の親睦を図る」ことが謳われていますが、私のような年配になると「親睦」＝「懇親会」を連想し、「リモートでは親睦は図れないだろう」と思ってしまいます。しかし、本同窓会の主体は統合後の卒業生、すなわちほぼ20歳台の若い卒業生です。私の世代とは全く異なる価値観を持ち、それぞれ交流のツールがあるので、「懇親会がない」と憂うのは余計な心配、大きなお世話なのだと思えばなりません。対面での懇親は「ほんごう会」や「北斗会」に任せ、本会はいかにして若い同窓会員の考えを反映し、本会の進むべき方向や活動について、世代のニーズにあった活動を行っていくかを考えなければなりません。そして本同窓会報が、同窓会に関心を持っていただくことに少しでも寄与できればと願っています。

改めて本会報に寄稿頂いた方々に感謝いたします。

E機関35 水谷淳之介 記